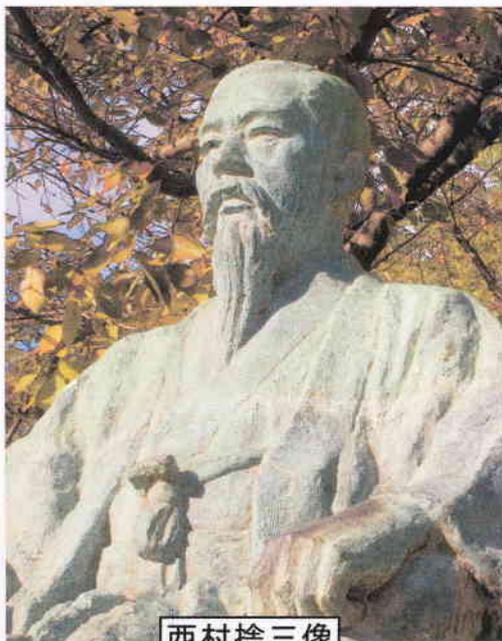


6 第6代大阪府知事 西村捨三像 大阪市港区築港3丁目2(天保山公園)

- ▶ 西村捨三は、天保14年(1843)7月 彦根藩作事奉行西村又次郎の三男として生まれました。幼名を得三郎、実名は有信と称しました。明治22年(1889)、大阪府知事(大阪港の開港には永年尽力している)に就任。同24年(1891)から農商務次官等々を歴任。明治41年(1908)1月14日に郷里彦根で逝去、享年66歳。従三位勲二等瑞宝章を賜る。大阪築港事務所初代所長の功績をたたえるため、昭和32年(1957)西村捨三像が建てられました。



西村捨三像



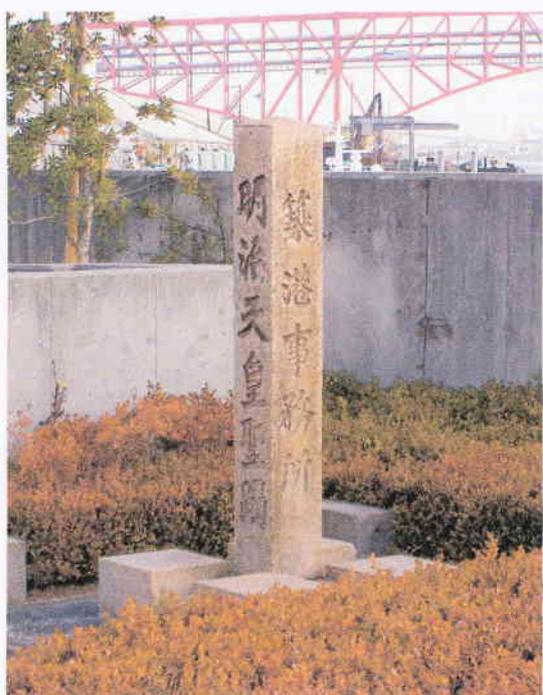
7 彦根藩主井伊家並びに西村捨三ゆかりの名石 朝陽岡の碑 大阪市港区築港3丁目2(天保山公園)

- ▶ 「朝陽岡(ちょうようこう)と銘される碑は、江戸期、彦根藩主井伊家の庭園にあった名石です。彦根藩出身の西村捨三が10才から14才まで、第17代藩主井伊直憲に伽小僧として仕えていた頃、毎日この碑の所で、殿様と休憩したと伝えられています。その後西村捨三は、この思い出深い碑を藩主より拝領して自宅に移し、朝夕愛賞しました。昭和32年(1957)西村翁の銅像を建設するに際し、この碑を傍に移して永年翁の霊を慰めることとなりました。



8 明治天皇聖蹟碑（築港事務所跡）大阪市港区海岸通1

- ▶ 明治30年(1897)、大阪築港の建設工事が着工されました。明治初期から懇願されていた大棧橋造成に際し、その担当責任者に元大阪府知事の西村捨三が選ばれました。彼は知事を退任後、北海道の炭鉱鉄道会社の社長に就任しましたが、大阪市からの熱望を受けて引き受けることとなりました。当初は巨額を投じて工事は一向に進んでない、との非難を受けたようですが、技術面、財政面いずれの困難にも克服し、ついに明治36年(1903)7月、大阪築港に大棧橋を完成させました。同年、明治天皇は第5回内国勸業博覧会に大阪へ行幸中、築港便殿に臨御築港を天覧されました。それを記念してこの場所に石碑が建てられました。大阪築港に大棧橋を完成させ、大阪築港事務所初代所長に就任した功績をたたえるため、天保山公園内に西村捨三像が建てられました。大棧橋の完成後、他の工事はなかなか進みませんでした。その後、第一次世界大戦をきっかけに築港工事は再着工され、昭和4年(1929)3月、約33年の年月を費やようやく完成しました。



築港事務所跡から見える大阪湾

<築港大棧橋>

幅22m、長さ455mの巨大な棧橋は、他の築港工事が遅れていたこともあって、港湾施設というより庶民のレクリエーションの場として活用されました。

夏の夕涼み、秋の観月と人々が集まり、棧橋上にはビアホールまで登場しました。

また、釣り人が棧橋にあふれ、おもしろいように魚が釣れたそうです。



完成当時の築港大棧橋

「大坂の史跡を訪ねて」の連載も、おかげをもちまして今号で30回目です。大阪(大坂)にも歴史的価値のある史跡が数多くあることに興味を持ち、できるだけたくさんの方々に知っていただきたい。また、ガイドブックに載っていない史跡も発掘して紹介したいという思いで連載をスタートいたしました。「大坂」は現在の大阪市の中央区、西区、北区など中心部に該当します。今後は大阪市中心部より範囲を広げて、大阪府内の史跡を紹介していきたいと思っております。次回以降もご期待ください。